

福 岡市文化芸術振興財団とニコちゃんの会では、2017年から協働して、演劇プロジェクトや重い障がいのある子どもたちを対象とした「アウトリーチ事業」を実施してきました。しかし、コロナの影響で、新しい取組みを模索する必要が生まれます。

新たにanno labも加わり、そんなコロナの真っ只中にスタートしたのが、「ニコちゃん meet with あのラボさん!!」です。このプロジェクトの過程を一言で表現するなら、まさに激動の3年間… そこで巻き起こったさまざまなすれ違いや不安、気づき、試行錯誤、ワクワクの「あゆみ」の一部をお伝えします!

プロジェクト開始前

Episode.1

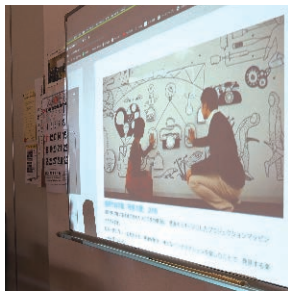
今だからこそ やらなくちゃ!

緊急事態宣言が終了し、コロナが少し落ち着いた頃でも、ニコちゃんの会では感染対策に余念がありませんでした。接触は最小限。しかも外出もできない。だからこそ逆に、「施設の中で楽しみを見つけない」「やれる範囲で何かやろう」という貪欲な思いがありました。そんなとき財団からの声かけが。

Episode.2

anno labとの出会い

元々、重い病気や障がいがあり、演劇公演に参加できていなかった子どもたちと新しいやり方のアートにチャレンジしたいと考えていたニコちゃんの会。そこでこの機会にオファーしたのがanno lab。スタッフの1人が「日常のとなり」をテーマにした個展でメディアアート作品に触れ、「anno labの世界と子どもたちがつながると面白い」と感じたのがきっかけでした。



2021 プロジェクト1年目

Episode.3

メディアアート、 もうここにあるじゃん

「メディアアート、もうここにあるじゃん」。子どもたちやニコちゃんの会を知れば知るほど、anno labが感じたことでした。メディアアートを広く捉えようと、人とモノの間にあるものを真剣に考えていくこと。そういう意味で、自分たちがいなくても既にメディアアートが成立していると感じたそうです。だからこそ余計に、「子どもたち自身が楽しむことにフォーカス」ことに注力したアクティビティを実施。自分たちとしては良い場になったと感じたけれど・・・

Episode.4

未知との遭遇から はじまった

普段から創作活動を行っているものの、メディアアートは初体験のニコちゃんの会。一方、重い病気や障がいのある子どもたちとのコラボは未知の領域のanno lab。「こうなったら成功 / 失敗」というゴールが誰にもわからない中でのスタートでした。日程調整、感染対策は大変。心拍とタッチセンサーを使用したアクティビティにニコちゃんの会のスタッフたちは大混乱。「なんだかすごいけど、自分たちは受け身でやっているだけで、よくわからなかった」という感想が。

2022 プロジェクト2年目

Episode.5

もっとお互いを知ろう

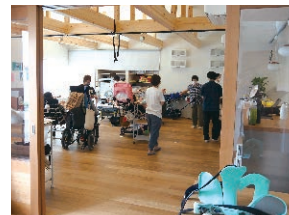
1年目の反省を踏まえて、「もっとお互いを知ろう」という話に。福岡市科学館でanno labのさだむさんがアートに対する価値観やスタンスについて話をした際、それまで「ようわからん」と言っていたニコちゃんの会のスタッフが、「なんでも協力するよ!」と変化。anno labも現場を訪問。少しずつ協力体制が深まっていきました。

2023 プロジェクト3年目

Episode.6

ケアコミュニティハウス 「ニコちゃん家」の完成!

ニコちゃんの会の事務所と通所施設が移転。それまで感染対策の一環から、アクティビティ当日の参加者数を限定していましたが、スペースが広がったことで、より多くの人参加、体験できるように。特にニコちゃんの会は、「今まで一部のスタッフしか参加できなかったけど、やっとみんなに伝えられる!」と感じられたそうです。



Episode.7

現場力が生きた コラボレーション

3年目のアクティビティは、お互いが作ったものを融合し合えたら面白くなる!という思いから、anno labがゾートロープを提案。お試し会では回転速度が上がるにつれて円盤の上に配置したものが飛び散ることも。その打開策になったのが、木工用ボンド!このアイディアはニコちゃんの会が主催する別のイベントで工作を行う際にたまたま思いついたものでした。

Episode.8

子どもたちの身体や感覚 から拡張したところに スタッフがいる

「ニコちゃん meet with あのラボさん!!」では、毎年、関係者で振り返りを行ってきました。3年目の振り返りの際、「1年目はスタッフさんを置いてけぼりにしてしまい、子どもたちだけを見てしまっていた。子どもたちの身体や感覚から拡張したところにスタッフがいるのだと後から気づいた。そのスタッフさんが不安に思うということは子どもたちも引張られるだろうと。そういうもどかしさ、もっとうまくできるだろうというモヤモヤ感があって、もっと知りたくなった」とanno labのさだむさん。

激動の2年間! (令和3~4年度)
振り返りトークMovie



認定NPO法人
ニコちゃんの会

「どんなに重い病気や障がいがあっても、その人らしく豊かに人生を生き抜くことができる社会」を目指し、様々な活動を展開している。障がいのある個人に直接的に関わる事、彼らを含めた社会全体に関する事、両側面からのアプローチを行う。主な活動に、身体的にパラエティあふれるひとたちの演劇公演、ケアコミュニティハウス「ニコちゃん家」運営、ニコサンタ、じぶんノート企画共同開発、ファミリーメンタルサポート等。

【お問合せ メール info@nicochan.jp / TEL 092-834-5182 (平日9:00~18:00)】



福岡市文化芸術振興財団

福岡市における文化芸術の振興を図るための事業を行い、市民の充実した生活の実現と薫り高い市民文化の創造に寄与することを目的に、1999年3月に設立されました。文化芸術は、すべての人の生活の中にあるもの。「アートと市民をつなぐ」を目標に、発足以来、1人でも多くの方が身近に文化芸術に触れ、感動し、熱くなれる“きっかけ”を提供しています。

【お問合せ メール ffac-02@ffac.or.jp / TEL 092-263-6265 (平日9:30-17:00)】



anno lab

福岡を中心に活動するクリエイティブ・ラボ。「楽しさ」「知的好奇心」を中心にしたクリエイティブを心掛ける。2021年、雑誌「Pen」によりPen Creator Awards 2021に選ばれる。2022年、作品「太陽と月の部屋」が文化庁メディア芸術祭アート部門大賞を受賞。

【お問合せ メール anno@annolab.com / TEL 092-775-3962】



2024年1月28日発行

主催 (公財) 福岡市文化芸術振興財団、福岡市

協力 anno lab、認定NPO法人ニコちゃんの会、NPO法人ドネルモ

デザイン 河村美季